

安倍政権を許さない！

—なぜいま市民運動にとりくむのか

現実への危機感

わたしはいま日本が戦争前の危機にあると思えてならない。それを何とかしなければという気持ち強い。あきらめたり、立ちすくんだりしているわけにはいかない。一緒にたたかおう・頑張ろうという人たちとともに、一人でも仲間を増やして安倍政権に NO をつきつけていかななくては、と思う。

安倍首相はアメリカのトランプ政権に歩調を合わせて、戦争への道をひた走っている。北朝鮮の金正恩政権がミサイルを発射した（4月29日）として、安倍首相はさらに制裁を強めようと滞在先のロンドンで吠えた。ロシアが提唱している6か国協議も必要ないとし、制裁・圧力をかけるべきだとしてトランプ政権の武力行使をも否定しない構えだ。

戦争屋たちの横暴を許さない！

わたしは北朝鮮・金正恩政権の暴走も許すことはできない。専制的な恐怖政治で国内を統治し、ミサイルと核兵器でアメリカと対抗しようとするなど賛成できないことは言うまでもない。けれどもアメリカの権力者たちが、原子力空母カーール・ビンソンを中心とする（自衛隊の二隻の最新鋭護衛艦も共同行動した）大艦隊を繰り出し、北朝鮮まで到達できる大陸間弾道ミサイルをこれ見よがしに打ち、韓国に中国をも射程に入れたTHAAD(サード)を持ち込むというのは戦争挑発行為ではないのか。“窮鼠猫を噛む”という言葉があるが、金正恩政権がそうならないとは限らない。このような権力者たちの民衆を犠牲にする行為を許してはならない。

ましてや日本は朝鮮の人々に言語に尽くしが

たい行為をし、そのことを日本政府は真摯に反省もしていない。日本の市民・労働者が政府の行為を批判しえず、加担してしまった過去をわたしたちは忘れてはいけない。その自覚に立って世界の心ある人々と手を携えていきたい。

辺野古・高江での米軍新基地建設をやめろ！

現在、安倍政権は辺野古において、なりふりかまわずアメリカ軍の新基地建設を急いでいる。いよいよ本体工事の着工だとして、護岸工事を強行している。沖縄の民意も全国の反対の声にも全く耳を傾けることなく。いや沖縄平和運動センター議長の山城博治さんらを反対運動から遠ざけ、たたかう人々を委縮させることを狙って、さまつなことを「理由」に5か月以上も留置したほどだ。アメリカ政府や安倍政権からするならば、辺野古・高江新基地は対北朝鮮・中国を射程に入れた軍事包囲網の要であるにちがいない。先島諸島・沖縄・本土の米軍基地とその機能強化、それとの自衛隊の連携強化を見よ！

沖縄の仲間たちは圧倒的な警察力にもかかわらず、本当に不屈に明るくたたかっている。わたしたちは残念ながら沖縄に犠牲を強いている現実を変えることができていない。彼らに学び、彼らと手を携えてたたかいたい。

共謀罪に反対する！

安倍政権はトランプ政権が IS をたたくといい、シリアへトマホーク 59 発を撃ち込んだ（4月7日）ことに対して、即座に「米国の決意を評価する」と賛意をあらわした。弾頭の下に何人の人々が犠牲になったのかに思いをめぐらすこともなく。

この政権は沖縄の民意を全く無視して、辺野古や高江に米軍の新軍事基地をつくることに奔走しているばかりでなく、日本の民衆が政府の諸政策に反対したり、異議を申し立てることそのものを封じ込めるためにあらゆる方策をとっている。秘密保護法しかり、盗聴法しかり、監視カメラ網の拡大しかり。そして極め付けが今回の「共謀罪」

だ。

共謀罪は実際に犯罪行為が行われなくとも、警察がこれはおかしいと捉え、そのことを相談したと判断した段階で、罪に問うことができるというものだ。「テロ対策」を理由として、政府に批判的なマスコミ・市民団体・労働組合・個人が対象となり、日常的に監視対象となってしまう危険は十分にある。戦前の治安維持法が「一般の人が対象となる危険はない」といわれていたのに、成立したのちには対象がどんどん拡大され、時の権力者たちが戦争遂行に反対したり、非協力的な人々を弾圧していった事実をわたしたちは知っている。全力で阻止しなければと思う。

9条改憲に踏み切る安倍政権を、たたかう仲間 の力で打ち倒そう！

5月3日の憲法記念日に安倍首相は改憲への意欲をみなぎらせた。改憲を実現しようという「美しい日本の憲法をつくる国民の会」を中心とした団体の集会にメッセージをよせた。「改憲を実現し2020年に新しい憲法を施行する」「9条はそのまま残し、自衛隊の存在を明記する文言を追加、自衛隊が違憲との議論が生まれる余地をなくす」と。

「9条をのこす」とはよく言ったものだ。自衛隊を明記して安保法（戦争法）を適用するならば、日本は戦争行為をやることになってしまうのではないか。改憲を実現するための方便に気をつけよう。2020年に新憲法を施行するというように、初めて具体的な期限を打ち出したことは、安倍首相の決意のほどを表している。極めて危険だ。

労働者でもある市民は怒りの声をあげよう

わたしは今も安い賃金で非正規のパートで働いている。これだけ低賃金の非正規労働者が増え、食べてゆくことすら大変になっていることにも怒りをもっている。安倍政権は「働き方改革」といって、一見働く者の味方づらをしている。けれどもやっていることはどうか。非正規労働者の存在をそのままにして、物価上昇にも満たない賃上

げを経営者に要請し、その一方で年金を下げ、医療介護保険料を引き上げているのではないか。その上「高度プロフェッショナル制度」などという働かせ放題の法律を立法化しようとしている。この3月末に安倍首相の要請によって労使で合意されたという繁忙期の残業規制が「月100時間未満」となったという話を、怒りなしに聞くことはできない。100時間という数字は政府すら認めている過労死ラインを超えているのではないか。

安倍政権はこのような労働者への仕打ちの他面で、今年度防衛費を大幅に増やし5兆円の大台を超えてなおもっと増やすことを狙っている。わたしたちは大きな声を上げざるを得ないではないか。

山本吉三

